

第4回 緑の基本計画改定委員会 議事概要

日時：令和2年11月27日（金）10:00～12:00

場所：議会棟5階 特別委員会室

議事次第

1. 開会
2. 環境推進部長挨拶
3. 議 事
（1）第3回委員会の意見概要と対応について
（2）熊本市緑の基本計画改訂 素案について
4. 閉会



配付資料

- 会議次第
- 委員名簿
- 資料「熊本市緑の基本計画」の改定について

資料1：第3回委員会の意見概要と対応

資料2：熊本市緑の基本計画（改定）素案 概要版

資料3：熊本市緑の基本計画（改定）素案 全体版

委員一覧

	氏 名	所 属（役職）	備 考
1	内野 明德	熊本大学名誉教授、熊本市環境審議会会長、 熊本市生物多様性推進会議委員長	
2	田中 尚人	熊本大学熊本創生推進機構准教授	欠席
3	柳井 重人	千葉大学大学院園芸学研究科准教授	
4	蓑茂 壽太郎	東京農業大学名誉教授、熊本県立大学客員教授、 熊本市都市政策研究所所長	
5	伊東 麗子	日本樹木医会熊本県支部	Web
6	岩佐 弘子	熊本市緑の少年団連盟会長、熊本市地球温暖化防止活動 推進員	
7	大川 洋次郎	熊本市公園愛護会連合会会長	
8	澤 克彦	一般社団法人九州環境地域づくり代表理事九州環境 パートナーシップオフィス業務責任者	
9	河上 強	熊本市学校環境緑化コンクール審査委員	
10	福西 江玲奈	市民公募委員	Web

発言者	内容
1. 開会	
事務局 (吉田)	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ今より、第3回熊本市緑の基本計画改定委員会を開催する。本日はお忙しい中ご出席いただき大変ありがたい。 ・都合により Web でご参加の委員様もいらっしゃいますが、第4回でようやく実際にお集まりいただく形で開催することができた。新型コロナウイルスの第3波が到来していると思われる中、安全に気を配りながら、議論を進められたらと思う。 ・開催に当たり、環境局環境推進部長本田よりご挨拶を申し上げる。
2. 環境推進部長挨拶	
環境局環境推進部 (本田)	<ul style="list-style-type: none"> ・本日はお忙しい中、第4回熊本市緑の基本計画改定委員会に参加いただき大変ありがたい。 ・これまでの会議において皆様からのご意見を踏まえて素案を作成した。熊本市緑の基本計画の最終的な内容を決定する上で重要であるため、皆様の忌憚のないご意見をいただきたい。
事務局 (吉田)	<ul style="list-style-type: none"> ・資料にしたがって議事を進めていく。 ・緑の基本計画改定委員会運営要綱第5条第2項に基づき、過半数の出席により本会議が成立していることを報告する。 (配布資料について確認) ・これから先は内野委員長に司会の進行をお願いする。
内野委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは議事次第に従い、議事を進めさせていただきます。
3. 議事(1) 第3回委員会の意見概要と対応について	
»事務局(大石)より、資料1「第3回委員会の意見概要と対応」を説明。	
蓑茂委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の改訂は、熊本市が政令指定都市になっていることが大きいと何度も指摘してきたがその意識が内容の中に見られない。区毎に作成しているのは政令指定都市になったからです。
事務局(田尻)	<ul style="list-style-type: none"> ・素案で区毎の方針をたてて、区役所と調整しながら進めてきた。
蓑茂委員	<ul style="list-style-type: none"> ・区毎でまとめたのは政令市になったからであるという内容の説明が、前段の部分で記載されていない。政令市と中核市は違い、熊本市は20番目の政令指定都市である。20番目の政令指定都市として、これまでの政令市の緑の現況や緑の基本計画に対する取組等をまとめた要約が必要ではないか。そういう検討を踏まえないと新しい骨太の計画はできない。
事務局(田尻)	<ul style="list-style-type: none"> ・政令指定都市について、緑被率等の状況を掴みながら比較検討を行ってきたが、分類等に異なる箇所がみられたため資料には掲載していない。
蓑茂委員	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本市は緑に対する組織体制が弱い。仙台や福岡などは局や部がある。組織づくりに結びつくように政令指定都市としてのプライドを持った緑の基本計画とする必要がある。
事務局(吉田)	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に反映できる部分は反映したい。熊本市の組織は連携しており、組織体制に反映できるかはわからないが、進めていきたい。
内野委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・他の政令指定都市との比較等については、冒頭部分で記載するようお願いする。
柳井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・基本理念の緑の質はなにか読み解いて素案を作成するようお願いしていた。素案のP35の緑の質の図については、パートナーシップの絵が伝わりづらい。スパイラルアップの絵は、緑の質のプロセスを表しているのか、中身を表しているのかかわからない。

	<p>緑の側面をプロセスのように書いているのでよくわからない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P36、P37の基本方針については、熊本市らしさがみえてこない。また基本方針の方向性はみえるが、なぜそれを行うのかが見えてこない。重要な部分であるため記載についてよろしく願う。
養茂委員	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCA サイクルに民間が入ると複雑となるため、まず行政内の PDCA サイクルを行い、うまくいくようであれば民間の参加を行うようにしてほしい。
吉田課長	<ul style="list-style-type: none"> ・庁内では年に1回計画の進捗の確認・評価を行い、外部の方を交えた報告・評価を行っていきたいと考えている。
3. 議事(2) 熊本市緑の基本計画改訂 素案について	
<p>≫事務局(大石)より、資料2「熊本市緑の基本計画(改定)素案 概要版」を説明。</p>	
岩佐委員	<ul style="list-style-type: none"> ・短期、中期、長期に渡って、それぞれの期間に応じた目標設定等はあるか。
事務局(吉田)	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな目標は定めている。 ・各取組に対するスケジュールは、個別の計画の中で進捗管理を行いながら進めていく形を考えている。
柳井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢の変化で6つ掲げられているが、新型コロナウイルスの内容は記載しないのか。事象としてのインパクトが大きく、心身ともにリフレッシュするという緑の本質的な部分との関連性が高いと考えているため、踏まえる必要があると考えている。
事務局(吉田)	<ul style="list-style-type: none"> ・庁内でも重要性については認識している。計画策定の背景(第1章)では少し触れているが、P2の計画策定の背景ではコロナ禍に関する記載があるが、社会情勢の変化(第2章)への記載は不足しているため、検討したいと考えている。
河上委員	<ul style="list-style-type: none"> ・防災に関連する内容として、防災公園等についても記載が必要である。
事務局(吉田)	<ul style="list-style-type: none"> ・素案のP26に防災公園について記載している。
岩佐委員	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーについての記載が少ないように感じている。
事務局(吉田)	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーについては公園が主な部分であり、記載はしているが見えにくい部分があると思うため、考え方についても盛り込みながら記載をしたい。
澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢の変化について、地球温暖化対策としての緑という部分に触れられているが、災害発生により安全が脅かされることに対する複合的な緑の役割もあると思うので、その部分も盛り込んでほしい。
養茂委員	<ul style="list-style-type: none"> ・緑の基本計画はSDGsと同じく2030年を目標としているため、SDGsの記載は社会情勢の6番目としたほうが良い。SDGsの中身をもう少し理解して記載してほしい。 ・第3章の市街地の変遷と緑被率の変化の時系列を同じにしてほしい。また、市街地の変遷については、昭和51年の市域は合併後の市域と同じではないため、合併前の市域で表現してほしい。どうしても現市域で表現したい場合は平成28年からさかのぼるようにして表現し、市街地の変遷は、旧市域でのことなのか、現市域において市街地の部分が分散した結果なのかというような解説を記載すると良い。 ・第5章のタイトルは、「重点的な取り組み～ゾーニングと緑化重点地区～」はゾーン区分とする方が良い。また、緑の将来像の田園共生や自然環境保全ゾーンなどは快適市街地などの名称の方が印象をつけやすいのではないかと。 ・第6章の区ごとの緑化方針は、緑化方針でよいのか。計画ごとの計画方針と推進施策が記載されているため検討し直してほしい。概要版の区ごとの部分については、1ページ毎に区の内容を記載するようにすると骨太の方針にも繋がると考える。
内野委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、有害鳥獣の問題が増加しており、10年間でさらに増加することが考えられる。

	農業等にも関連するため、有害鳥獣等に対する対応を追加してほしい。
福西委員	・素案の P42 の健全な森づくりの施策について、有害鳥獣にも関連しとても良い取組である一方で、手続きや方法に難しい部分がある。その辺の内容がわかるようにもう少し詳細な記載を検討してほしい。
蓑茂委員	・基本方針について、環境保全、防災、景観、レクリエーションにおける系統は計画の中で盛り込まないのか。
事務局（田尻）	・P35 の緑の質の向上の部分で盛り込んでいる。
蓑茂委員	・その質の向上を具体的な施策に盛り込まないのか。
大川委員	・熊本市は森の都であるとともに水の都でもあり、「水」も重要性が高いため PR してほしい。 ・今年、大きな水害が発生してきた経緯があるため、防災公園の重要性は高さ（公園は一時避難所として、樹木は防火林としての効用がある）。
蓑茂委員	・緑と水の密接な関係を意識した記載をしてほしい。
内野委員長	・水源かん養林なども触れていく必要がある。
柳井委員	・基本方針 3 の緑を活かすについて、立田山・熊本城・水前寺江津湖などの恵まれた財産をどうやって魅力アップにつなげるかが必要だと感じている。そのような熊本市が大切にすべき公園・緑地などがはっきりしないため記載を工夫する必要があるほか、緑の基本計画とは別の、個別計画についても〇〇プランなど大きいものがあれば、計画の構造をはっきりさせるため、表に出ていくべきである。
事務局（吉田）	・熊本市のシンボルとなる部分を強調するよう記載について検討する。個別計画については、該当する箇所の記載について検討する。
内野委員長	・個別計画をすべて記載する必要はない。個別計画を念頭に盛り込んでいるのかを確認したい。
事務局（吉田）	・個別計画については、計画名がないものについても基本計画の中身に盛り込んでいる。
柳井委員	・個別計画については、市全体で行う計画内容について記載をお願いする。
蓑茂委員	・素案の P38 の基本方針と施策の関係図について、緑を繋げるは緑のネットワークを思い浮かべてしまう。緑を守る、緑を育む、緑を活かすが地上にあり、緑を繋げるは根の部分に該当すると考えているため検討が必要である。
内野委員長	・緑を繋げるはパートナーシップなどの内容となるため、私も 3 つの基本方針とは別枠だと考える。
澤委員	・緑を繋げるは、緑を支えるようなニュアンスに近いものを感じる。 ・素案では森の都の実現に向けた理念だが、概要版では新たな森の都の実現という記載となっているため統一をお願いする。
柳井委員	・素案の P81 の施策の体系図について、PDCA で行う緑の基本計画推進委員会では、緑化重点地区の施策、新規施策、熊本市全体で力を入れて行う施策の 3 つのどれを進行管理するのかがわからないため考え方を聞きたい。
事務局（吉田）	・熊本市としてどこに力を入れて進行管理を行うのか検討していきたい。
柳井委員	・緑の基本計画を改訂したことによって、市としてどこに力を入れていくか、何が変わるのか明確にしないと、市民の共感は得られないと考えているためよろしく願います。
伊東委員	・素案の P48 の目標について、街路樹再生計画で街路樹の本数を減らすということになっているが、この目標に対する検証の仕方緑の量が増えるのかが気になる。また、

	<p>街路樹再生計画との整合を図る必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢の変化のSDGs、生物多様性、グリーンインフラが単語のみとなっているため、特に概要版については丁寧に説明を入れてはどうか。
蓑茂委員	<ul style="list-style-type: none"> ・（この計画により）熊本市が抱えている緑の様々な課題が解決するのか確認する必要がある。街路樹の課題についてもそうである。 ・立田山や風致地区の指定が熊本市の遺産であるが、風致地区に対する新たな施策がない。これからの風致地区をどうするのか考えるべきである。 ・八景水谷公園では、水道局の看板と公園の看板が多くあり（行政の縦割りを感じ）残念である。共同の看板にするなどの対策が必要であるため、この計画で解消できるようにしてほしい。 ・行政で全てを担うことは困難であり、これからは、市民が担うことになる。公共から民間への移行に当たり、使いやすい計画となるようにしてほしい。 ・公園等について、子どもを育てるのにいい環境が作れそうな予感が感じられるように記載を工夫してほしい。
内野委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・実現可能なものにしてほしいため、よろしく願います。
柳井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・進行管理について、緑の基本計画を途中で見直しをすること、外部組織による計画の見直しをすること、庁内での計画のチェックなどの3つが考えられるが、緑の基本計画全体の見直しについては記載しないのか。
事務局（吉田）	<ul style="list-style-type: none"> ・計画期間10年であり、5年で見直しが必要と考えている。また、社会情勢の変化などがあれば随時見直しが必要である。5年での見直しについては記載方法を検討する。
大川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・街路樹の落葉により、市電がスリップし乗り心地が悪くなる。以前の委員会でも発言したが、街路樹の種類を検討しなおすなどしてはどうか。
事務局（吉田）	<ul style="list-style-type: none"> ・街路樹は街路樹再生計画があり、植え替え、伐採等の計画もある。本日の意見を踏まえて連携して検討していきたい。
蓑茂委員	<ul style="list-style-type: none"> ・約40年前に都市緑化推進計画があり、その時代に植えた街路樹が今大きくなっている。それらの街路樹は生育が無理な場所にもある状況で、それらをどのようにするか の転換期にある
事務局（東園）	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほど伊東委員の方から指摘があった件について補足すると、緑視率と街路樹再生計画との整合については、整合していないわけではない。街路樹再生計画にあるように街路樹の緑を増やすことは難しいが、フラワーポットなどの民有地の緑化を推進することで緑視率の向上を図る計画を考えている。
蓑茂委員	<ul style="list-style-type: none"> ・道路に面した民有地にフラワーポット等で緑を増やすでは、民間だけに頼って緑視率を確保するといった見方もできるため、そのような表現にはしないほうが良い。
内野委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・本日いただいたご意見の反映について、事務局の今後の対応はどのようになるか。
事務局（吉田）	<ul style="list-style-type: none"> ・本日のご意見を参考に修正を行う。パブリックコメントを実施する前に、委員の皆様へ、一度、内容を確認していただく必要があると考えているため、委員長と調整をさせていただきます。
4. 閉会	
内野委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・これで、予定していた議事がすべて終了した。長時間にわたるご審議ありがとうございました。これで議事を終わりたいと思う。事務局にお返す。
事務局（吉田）	<ul style="list-style-type: none"> ・本日は大変お忙しい中、改定委員会へのご参加いただき、ありがとうございました。 ・本日賜りました貴重なご意見を参考に、「森の都」にふさわしい緑の基本計画となる

よう、素案からさらに改善を図って参る。

- 今後のスケジュールは、12月末から1月にかけてパブリックコメントを実施し、それを受けて修正を行う。
- 2月中旬に最終の第5回改定委員会を開催予定である。なお、コロナの状況を考慮して開催形式を決定したいと思う。
- 以上をもって「第4回 熊本市緑の基本計画改定委員会」を閉会する。